

News Release



新潟国際情報大学
Niigata University of International and Information Studies



令和7年5月12日

ノーベル平和賞候補者・カンボジア元女性省大臣 による特別講演会のご案内

このたび、ノーベル平和賞候補者で元カンボジア女性省大臣のムー・ソックフオ氏をお招きし、カンボジアにおける民主化の失敗とその国際的影響についてご講演いただきます。

【講演概要】

日本を含む国際社会は1991年のカンボジア和平パリ協定に調印し、内戦後の同国における民主的な国づくりを支援してきました。しかし、現在のカンボジアではン・セン一族による独裁体制が強まり、直近の2回の総選挙は主要野党を排除して実施されました。

この民主主義の後退は、カンボジア一国の問題にとどまらず、東南アジア地域全体と世界に広範な脅威をもたらしています。独裁的な現政権が中国と緊密な同盟関係を結んだことで、パリ和平協定が規定したカンボジアの中立性は損なわれ、中国の実質的な軍事拠点の設置による地域安全保障の不安定化や、中国系犯罪組織による人身売買とオンライン詐欺の拠点化など、深刻な問題が生じています。

さらに、カンボジアの独裁政権は中国と同様に、日本を含む世界各地の在外民主化勢力に対して越境弾圧を展開しています。

今日、カンボジア国内で反対の声を上げることは事実上不可能です。ムー・ソックフオ氏が代表を務めるクメール民主主義運動(KMD)は米国に拠点を置き、国際社会へのロビー活動、将来のリーダーとなりうる若者の育成などを通じて、カンボジアに民主主義を再建するための闘いを続けています。

貴重な機会となりますのでご案内申し上げるとともに、ぜひ取材にお越しください。

記

日 時:令和7年5月20日(火)14:50~16:20

会 場:新潟国際情報大学 本校みずき野キャンパス 140教室

講 師:ムー・ソックフオ(MU Sochua)氏

(クメール民主主義運動(KMD)代表/元カンボジア女性省大臣、元国民議会議員、ノーベル平和賞候補者)
演 題:「カンボジアにおける民主主義の再建に向けて—民主化の失敗がもたらす世界的課題」

以 上

【問合せ先】

新潟国際情報大学 国際学部 国際文化学科
教 授 山田裕 史
〒950-2292 新潟市西区みずき野 3-1-1
TEL 025-239-3111(代)
E-Mail:hyamada@nuiis.ac.jp

ムー・ソックフオ (មុ សុខា អូ Mu Sochua) 氏

クメール民主主義運動 (KMD) 代表

元 カンボジア女性・退役軍人省大臣 (1998~2004 年)

元 カンボジア国民議会議員 (1998~2003 年、2008~2017 年)

ノーベル平和賞候補者 (2005 年)



【略歴】

1954 年 5 月 15 日、カンボジア王国プノンペン生まれ。内戦下の 1972 年にフランスへ留学し、その後、渡米してサンフランシスコ州立大学で心理学の学士号を、カリフォルニア大学バークレー校で社会福祉学の修士号を取得。1980 年代、タイとカンボジアの国境にある難民キャンプで人道支援に従事。1989 年に帰国した後、カンボジア初の女性支援 NGO 「Khemara」 を設立。

1998 年 7 月の総選挙で王党派のフンシンペック党から出馬して初当選を果たし、同年 11 月にフン・セン首相率いる連立政権下で女性・退役軍人省大臣に就任。家庭内暴力防止法の制定や人身売買対策に尽力したが、2004 年 7 月、政権の汚職に抗議して大臣職を辞任。その後、野党サム・ランシー党に移籍し、2006 年に同党初の女性幹事長に就任。

2012 年、サム・ランシー党と人権党が合流して結成された救国党に加わり、2017 年 2 月に副党首に就任。しかし同年 11 月、政権の影響下にある最高裁判所が救国党の解党と同党幹部 118 人に対する 5 年間の政治活動禁止を命令したことを受け、米国に亡命。2019 年 11 月の帰国計画は政権により阻止され、クーデタ未遂の容疑で訴追された。2021 年 3 月、プノンペン都始審裁判所は欠席裁判で禁錮 22 年の実刑判決を下した。

2024 年にクメール民主主義運動 (KMD) を立ち上げて代表に就任し、在外カンボジア人コミュニティを中心にカンボジアの民主化と人権擁護のための活動を継続している。

女性の権利向上と政治参加の促進における貢献が国際的に評価され、2005 年に Vital Voices グローバル・リーダーシップ賞、2010 年にピープルズ・チョイス人権賞、2009 年に人権におけるリーダーシップに対するエレノア・ルーズベルト賞など受賞多数。また、性的人身売買対策の功績により 2005 年にノーベル平和賞にノミネートされた。